

岩手県文化財調査報告書第68集

# 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

—XIII—

太田方八丁遺跡(志波城跡)

昭和57年3月

岩手県教育委員会  
日本道路公団

# 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

—XIII—

太田方八丁遺跡(志波城跡)



## 序

地域開発に伴う道路など交通網の整備事業は、現代社会の進歩発展から生ずる必然的な要請であり、本県においても、このような建設事業が多く計画・実施されております。

これらの開発事業に関連して、私たちには、先人が長い歴史の中で培いはぐくんできた貴重な文化遺産を保護し、新たな文化創造の糧として活用していく責務があります。

国土開発計画に基づいて建設される東北縦貫自動車道は、産業・経済開発の大動脈として多方面からの期待をになう国家的な大事業であり、宮城県境より西根インターまでは、すでに供用され、現在は更に秋田・青森県境へと工事が進められております。

岩手県教育委員会は、この供用区間に関係した99遺跡について、日本道路公団仙台建設局の委託によって、昭和47年度から7か年にわたって発掘調査を実施し、その整理と報告書の作成を、昭和53年度から4か年計画で実施して参りました。本年度は、その最終年度にあたります。

本報告書は、東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書の第Ⅲ冊目として盛岡市の太田方八丁遺跡について、調査結果をとりまとめたものであります。

調査の結果は、170棟にもおよぶ竪穴住居跡群とともに、南辺を区かくする大溝や築地跡、築地をまたぐヤグラ跡等が検出され、伴出遺物や観察から勘案して、平安時代初期に築営された大規模な城柵跡であることが判明しました。古代律令政権が東北経営に示した意図を如実に知る重要な遺跡であります。その後、盛岡市の調査に引継がれ、現在では延暦22年(803)に坂上田村麻呂によって構築された志波城跡である確率がきわめて高いと考えられております。

この報告書が研究者のみならず、広く一般のかたがたに活用され、埋蔵文化財に対する理解が一段と深められるように願ってやみません。

ここに、調査について御援助、御協力をいただいた地元教育委員会はじめ関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

昭和57年3月

岩手県教育委員会

教育長 新里 盈

## 例 言

1. 本書は東北縦貫自動車道関係遺跡発掘調査報告書第Ⅲ分冊一太田方八丁遺跡一(志波城跡)として、岩手県盛岡市中太田字方八丁62地割4番地ほかに所在する太田方八丁遺跡(志波城跡)について作成したものである。

2. 発掘調査は日本道路公団の委託をうけ、岩手県教育委員会が主体となり、昭和51年4月7日～同年12月13日、昭和52年4月4日～同年11月26日の二次に渡って実施した。

昭和51年の調査は吉田 努、吉田義男が、佐藤和男、佐伯研二、中村清也の補助を得て担当し、昭和52年は前年のメンバーに、調査員三上 昭、島 隆、補助員千葉周秋、松尾芳弘、鈴木よね子、阿部裕子、宮 康夫が加わり、6月6日～8月31日まで相原康二、八重樫良宏に補助員鈴木明美が参加した。これらの総括は瀬川司男、菊地郁雄が当たった。

調査に当っては盛岡市教育委員会をはじめ、関係機関、地元の方々の多大なご協力をいただいた。

3. 発掘調査および整理については、次の方々からご指導、ご助言を賜わった。(敬称略)

板橋 源 (岩手県立博物館長)	佐々木博康 (岩手大学文部技官)
草間俊一 (盛岡短期大学学長)	国生 尚 ((財) 県埋文センター主任調査員)
故森 嘉兵衛 (元岩手大学名誉教授)	吉田義昭 (盛岡市教育委員会社会教育課長補佐)
田中喜多美 (元県文化財保護審議会委員)	佐)
司東真雄 (県文化財保護審議会委員)	八木光則 (盛岡市教育委員会主事)
伊東信夫 (東北学院大学教授)	伊藤博幸 (水沢市教育委員会主事)
林 謙作 (北海道大学助教授)	平川 南 (東北歴史資料館企画科長)
小林達夫 (国学院大学助教授)	下條信行 (平安博物館助教授)
水野正好 (奈良大学助教授)	増沢武文 (元興寺文化財研究所保存科学研究室長)
阿部義平 (国立歴史民俗博物館助教授)	室長)
岡田茂弘 (国立歴史民俗博物館助教授)	

4. 出土遺物の鑑定・分析・保存処理については、次の方々のご指導、ご協力を賜わった。(敬称略)

石材鑑定	佐藤二郎 (県立大船渡農業高校教諭)
種子鑑定	村井三郎 (県文化財保護審議会委員)
木材・炭材質鑑定	早坂松次郎 (県木炭協会指導員)
土器等胎土分析	照井一明 (県立種市高校教諭)

	岩手県立博物館
	岩手県工業試験場
鉄滓分析	岩手県工業試験場
火山灰分析	井上克弘（岩手大学助教授）
還元炉片鑑定	新沼鉄夫（釜石市在住 鉄研究者）
漆器保存処理	元興寺文化財研究所
C-14測定	（社）日本アイソトープ協会
古銭鑑定	引間茂夫（岩手古泉会相談役）

5. 本書に掲載する地形図は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図、20万分の1地勢図を、遺跡全体図、遺構配置図、南辺外郭遺構図はアジア航測株式会社に委託し作成したもので、遺構配置図と南辺外郭遺構図には第10系座標と調査座標を併記してある。調査範囲と地形には日本道路公団作成の「TOHOKU EXPRESSWAY PLAN」図を利用した。
6. 本書の編集は吉田 努、執筆は遺構について吉田 努、遺構中掘立柱建物は昆野 靖、遺物は八重樫良宏が担当した。遺構図のトレースは高橋生子、遺物の復元は高橋生子、後藤裕子、村上良子、村井 隆、伊藤ふく、長坂麗子、実測・トレースは後藤裕子、村上良子、写真撮影、現像は桜井芳彦、村井 隆、小森陵一の協力を得た。
7. 現地説明会資料等の既報と相異なる部分は本報告書で統一するものである。



# 目次

序

例言

I 調査と方法	1	(3) 方形土壌	294
1 調査と保存の経過	1	6 方形竪穴状遺構	297
(1) 調査の経過	1	7 焼土遺構	301
(2) 一部保存にいたる経過	2	8 溝	317
2 調査範囲と、調査・整理方法	3	9 検出面採集、出土地点不明遺物	325
(1) 調査範囲	3	IV 考察とまとめ	332
(2) 調査の方法	3	i 遺構について	332
(3) 整理の方法	5	1 南辺外郭	332
II 遺跡の立地と環境	7	(1) 築地跡	332
1 遺跡の位置	7	(2) 掘立柱櫓跡	335
2 地形と周辺の遺跡	7	(3) 築地内外溝	337
(1) 地形	7	(4) 南(外)大溝	337
(2) 周辺遺跡とその占地	10	2 竪穴住居跡と竪穴	339
3 地質	10	(1) 竪穴住居跡	339
III 検出された遺構と遺物	13	1) 平面形	339
1 南辺外郭遺構	13	2) 規模	339
(1) 築地跡	13	3) 壁と周溝	340
(2) 掘立柱櫓跡	14	4) 床	340
(3) 築地内外溝	16	5) 柱穴	341
(4) 南(外)大溝	21	6) カマド	344
2 竪穴住居跡と竪穴	23	7) その他の施設	348
(1) 竪穴住居跡	23	(2) 竪穴	348
(2) 竪穴	243	(3) 竪穴住居跡・竪穴の配置 と遺跡の地割	348
(3) 未精査遺構出土遺物	256	3 井戸	356
3 井戸跡	261	4 掘立柱建物跡	356
4 掘立柱建物跡	265	1) 分布	356
5 土壌	283	2) 建物の規模	356
(1) 円形土壌	283	3) 掘り方と柱痕	358
(2) 長方形土	290		



4)	建物方向	359	2)	足方様石製品	448
5)	柱間寸法	360	(10)	硯	449
6)	柱配置と構造	363	(11)	漆紙他	450
7)	時期	364	(12)	古銭	452
5	土壌	366	(13)	陶・磁器	454
(1)	円形土壌	366	1)	緑釉陶器片	454
(2)	長方形土壌	366	2)	陶・磁器片について	455
(3)	方形土壌	368	2	出土遺物についてのまとめ	459
6	方形竪穴状遺構	368	iii	まとめ	467
7	焼土遺構	369	V	分析鑑定結果	469
8	溝	371		特別寄稿	
ii	発見された遺物	372	1	東北地方における奈良・平安時代 遺跡埋土中の粉状パミスについて 井上克弘 山田一郎	469
1	分類・考察他	372	2	土器胎土の岩石学的方法による 分析結果 照井一明	487
(1)	環形土器	373	3	土器の定量・定性分析結果 岩手県工業試験場 岩手県立博物館	504
(2)	高台坏	399	4	鉄滓・鉄製品の分析結果 岩手県工業試験場	514
(3)	台付皿	403	5	木炭について 早坂松次郎	515
(4)	双耳坏	403	6	種子について 村井 三郎	515
(5)	蓋	404	7	<sup>14</sup> C測定結果 (社)日本アイソトープ協会 ……………	516
(6)	甕・鉢・壺形等の土器	406	付記	TH <sub>n</sub> -001 竪穴住居跡	517
1)	甕形土器	406		写真図版	
2)	鉢形土器	414		文化課職員 (埋蔵文化財) 一覧	
3)	壺形土器	414			
(7)	鉄製品	416			
(8)	製鉄関係遺物について	432			
1)	炉壁	432			
2)	鞆の羽口	435			
3)	鉄滓	438			
	特別寄稿「発掘された炉体片 からみる炉体の考察」 新沼鉄夫	440			
(9)	石製品	443			
1)	砥石	443			

## 挿 図 目 次

第1図	岩手県における東北縦貫自動車道関係遺跡分布図	
第2-1図	調査区画模式図	4
第2-2図	グリッド配置模式図	4
第3図	遺跡位置図	8
第4図	地形区分ならびに「遺跡」立地図	9
第5図	地層柱状図	11
第6図	北段丘崖断面図（EWO・N351～N361地点）	11
第7図	築地寄柱模式図	14
第8図	櫓平面・断面、寄柱断面図	15
第9-1図	築地内外溝・南（外）大溝断面図	17・18
第9-2図	築地内溝・外溝出土遺物実測図	20
第10図	1号（Af 15） 竪穴住居跡実測図	23
第11-1図	2号（Bd 77） 竪穴住居跡実測図	25
第11-2図	2号（Bd 77） 竪穴住居跡出土遺物実測図	26
第12-1図	3号（Cb 77） 竪穴住居跡実測図	28
第12-2図	3号（Cb 77） 竪穴住居跡出土遺物実測図	30
第13-1図	4号（Cf 50） 竪穴住居跡実測図	31
第13-2図	4号（Cf 50） 竪穴住居跡出土遺物実測図	33
第14-1図	5号（Cg 06） 竪穴住居跡実測図	34
第14-2・3図	5号（Cg 06） 竪穴住居跡出土遺物実測図	36～38
第15-1図	6号（De 06） 竪穴住居跡実測図	40
第15-2・3図	6号（De 06） 竪穴住居跡出土遺物実測図	43・44
第16-1図	7号（Dh 71） 竪穴住居跡実測図	45
第16-2・3図	7号（Dh 71） 竪穴住居跡出土遺物実測図	47・48
第17-1図	8号（Di 53） 竪穴住居跡実測図	49
第17-2・3・4図	8号（Di 53） 竪穴住居跡出土遺物実測図	51～54
第18-1図	9号（Ea 59） 竪穴住居跡実測図	57
第18-2・3図	9号（Ea 59） 竪穴住居跡出土遺物実測図	59・60
第19-1図	10号（Eb 03 新・旧） 竪穴住居跡実測図	61
第19-2図	10号（Eb 03 旧） 竪穴住居跡出土遺物実測図	63

第19-3 図	10号 (Eb 03 新) 竪穴住居跡出土遺物実測図	66
第20-1 図	11号 (Eb 09) 竪穴住居跡実測図	67
第20-2 図	11号 (Eb 09) 竪穴住居跡出土遺物実測図	69
	12号 (Ec 62) 竪穴住居跡出土遺物実測図	69
第21 図	12号 (Ec 62) 竪穴住居跡実測図	70
第22-1 図	13号 (Ec 53) 竪穴住居跡実測図	72
第22-2 図	13号 (Ec 53) 竪穴住居跡出土遺物実測図	73
第23-1 図	14号 (Fe 06) 竪穴住居跡実測図	74
第23-2 図	14号 (Fe 06) 竪穴住居跡出土遺物実測図	75
第24-1 図	15号 (Fi 09) 竪穴住居跡実測図	77
第24-2・3 図	15号 (Fi 09) 竪穴住居跡出土遺物実測図	78・79
第25-1 図	16号 (Ge 09) 竪穴住居跡実測図	81
第25-2・3 図	16号 (Ge 09) 竪穴住居跡出土遺物実測図	83・84
第26-1 図	17号 (Gi 09) 竪穴住居跡実測図	86
第26-2・3・4 図	17号 (Gi 09) 竪穴住居跡出土遺物実測図	87~89
第27-1 図	18号 (Gj 12) 竪穴住居跡実測図	91
第27-2・3 図	18号 (Gj 12) 竪穴住居跡出土遺物実測図	92・93
第28-1 図	19号 (Id 12) 竪穴住居跡実測図	95
第28-2・3 図	19号 (Id 12) 竪穴住居跡出土遺物実測図	98~100
第29-1 図	20号 (Jc 15) 竪穴住居跡実測図	102
第29-2 図	20号 (Jc 15) 竪穴住居跡出土遺物実測図	103
第30-1 図	21号 (Jd 50) 竪穴住居跡実測図	105
第30-2 図	21号 (Jd 50) 竪穴住居跡出土遺物	106
第31-1 図	22号 (Je 15) 竪穴住居跡実測図	107
第31-2 図	22号 (Je 15) 竪穴住居跡出土遺物実測図	108
第32-1 図	23号 (Ji 59) 竪穴住居跡実測図	110
第32-2 図	23号 (Ji 59) 竪穴住居跡出土遺物実測図	112
第33-1 図	24号 (Jj 03) 竪穴住居跡実測図	113
	1号 (Ka 50) 竪穴実測図	113
第33-2 図	24号 (Jj 03) 竪穴住居跡出土遺物実測図	114
第34-1 図	25号 (Jj 12) 竪穴住居跡実測図	116
第34-2 図	25号 (Jj 12) 竪穴住居跡出土遺物実測図	118

第35-1 図	26号 (Kc 12) 竪穴住居跡実測図	119
第35-2 図	26号 (Kc 12) 竪穴住居跡出土遺物実測図	121
第36-1 図	27号 (Ke 03) 竪穴住居跡実測図	123
第36-2 図	27号 (Ke 03) 竪穴住居跡出土遺物実測図	124
第37-1 図	28号 (Ki 03) 竪穴住居跡実測図	125
第37-2 図	28号 (Ki 03) 竪穴住居跡出土遺物実測図	126
第38-1 図	29号 (La 50) 竪穴住居跡実測図	127
	2号 (La 06) 竪穴実測図	127
第38-2 図	29号 (La 50) 竪穴住居跡出土遺物実測図	129・130
第39-1 図	30号 (Lb 24) 竪穴住居跡実測図	132
第39-2 図	30号 (Lb 24) 竪穴住居跡出土遺物実測図	133
第40-1 図	31号 (Lc 33-1) 竪穴住居跡実測図	134
	32号 (Lc 33-2) 竪穴住居跡実測図	134
第40-2 図	31号 (Lc 33-1) 竪穴住居跡出土遺物実測図	136
第41 図	32号 (Lc 33-2) 竪穴住居跡出土遺物実測図	138
第42-1 図	33号 (Lj 21) 竪穴住居跡実測図	140
第42-2・3 図	33号 (Lj 21) 竪穴住居跡出土遺物実測図	142・143
第43-1 図	34号 (Lj 27) 竪穴住居跡実測図	145
第43-2 図	34号 (Lj 27) 竪穴住居跡出土遺物実測図	146
第44-1 図	35号 (Lj 71) 竪穴住居跡実測図	148
第44-2 図	35号 (Lj 71) 竪穴住居跡出土遺物実測図	149
第45-1 図	36号 (Mc 18) 竪穴住居跡実測図	151
第45-2 図	36号 (Mc 18) 竪穴住居跡出土遺物実測図	153・154
第46-1 図	37号 (Me 18) 竪穴住居跡実測図	155
第46-2 図	37号 (Me 18) 竪穴住居跡出土遺物実測図	157
第47-1 図	38号 (Me 21) 竪穴住居跡実測図	158
第47-2 図	38号 (Me 21) 竪穴住居跡出土遺物実測図	159
第48-1 図	39号 (Me 27) 竪穴住居跡実測図	160
第48-2・3 図	39号 (Me 27) 竪穴住居跡出土遺物実測図	162・163
第49-1 図	40号 (Me 62) 竪穴住居跡実測図	165
第49-2 図	40号 (Me 62) 竪穴住居跡出土遺物実測図	166
第50-1 図	41号 (Mi 27) 竪穴住居跡実測図	168

第50- 2 図	41号 (Mi 27) 竪穴住居跡出土遺物実測図	169
第51- 1 図	42号 (Nh 06) 竪穴住居跡実測図	170
第51- 2 図	42号 (Nh 06) 竪穴住居跡出土遺物実測図	171
第52- 1 図	43号 (Nj 21) 竪穴住居跡実測図	173
第52- 2 図	43号 (Nj 21) 竪穴住居跡出土遺物実測図	174
	44号 (Ob 30) 竪穴住居跡出土遺物実測図	174
	45号 (Oc 27) 竪穴住居跡出土遺物実測図	174
第53図	44号 (Ob 30) 竪穴住居跡実測図	176
第54図	45号 (Oc 27) 竪穴住居跡実測図	177
第55- 1・2 図	46号 (Oi 33) 竪穴住居跡実測図・炉壁片分布図	180~182
第55- 3・4・5 図	46号 (Oi 33) 竪穴住居跡出土遺物実測図	185~188
第56- 1 図	47号 (Pd 15) 竪穴住居跡実測図	191
第56- 2 図	47号 (Pd 15) 竪穴住居跡出土遺物実測図	192
第57- 1 図	48号 (Pe 33) 竪穴住居跡実測図	194
第57- 2 図	48号 (Pe 33) 竪穴住居跡出土遺物実測図	196
第58- 1 図	49号 (Pf 18) 竪穴住居跡実測図	197
第58- 2 図	49号 (Pf 18) 竪穴住居跡出土遺物実測図	198
第59- 1 図	50号 (Pg 33) 竪穴住居跡実測図	199
第59- 2 図	50号 (Pg 33) 竪穴住居跡出土遺物実測図	200
第60- 1 図	51号 (Pi 27) 竪穴住居跡実測図	202
第60- 2 図	51号 (Pi 27) 竪穴住居跡出土遺物実測図	204
第61図	52号 (Pj 18) 竪穴住居跡実測図	205
	10号 (Pj 21) 竪穴実測図	205
第62- 1 図	53号 (Qe 09) 竪穴住居跡実測図	207
第62- 2 図	53号 (Qe 09) 竪穴住居跡出土遺物実測図	208
第63- 1 図	54号 (Qe 18) 竪穴住居跡実測図	209
第63- 2・3 図	54号 (Qe 18) 竪穴住居跡出土遺物実測図	211・212
第64- 1 図	55号 (Qg 24) 竪穴住居跡実測図	214
第64- 2 図	55号 (Qg 24) 竪穴住居跡出土遺物実測図	216
第65- 1 図	56号 (Rh 06) 竪穴住居跡実測図	217・218
第65- 2・3 図	56号 (Rh 06) 竪穴住居跡出土遺物実測図	220~222
第66- 1 図	57号 (Sj 74) 竪穴住居跡実測図	225・226

第66-2 図	57号 (Sj 74) 竪穴住居跡出土遺物実測図	228
	58号 (Tg 12) 竪穴住居跡出土遺物実測図	228
第67 図	58号 (Tg 12) 竪穴住居跡実測図	230
第68-1 図	59号 (Tj 21) 竪穴住居跡実測図	232
第68-2 図	59号 (Tj 21) 竪穴住居跡出土遺物実測図	234
第68-3 図	59号 (Tj 21) 竪穴住居跡出土遺物実測図	235
	60号 (Ue 09) 竪穴住居跡出土遺物実測図	235
第69 図	60号 (Ue 09) 竪穴住居跡実測図	236
第70-1 図	61号 (Be 71) 竪穴住居跡実測図	238
第70-2 図	61号 (Be 71) 竪穴住居跡出土遺物実測図	240
第71-1 図	62号 (Na 68) 竪穴住居跡実測図	241
第71-2 図	62号 (Na 68) 竪穴住居跡出土遺物実測図	242
第72 図	67号 (Dc 12) 竪穴住居跡実測図	242
第73-1 図	3号 (Lh 30) 竪穴実測図	244
第73-2 図	3号 (Lh 30) 竪穴出土遺物実測図	246
	4号 (Mb 27) 竪穴出土遺物実測図	246
	5号 (Mb 27) 竪穴出土遺物実測図	246
第74 図	5号 (Mb 27) 竪穴実測図	248
第75-1 図	6号 (Na 27) 竪穴実測図	249
第75-2 図	6号 (Na 27) 竪穴出土遺物実測図	251
	7号 (Pb 33) 竪穴出土遺物実測図	251
第76 図	7号 (Pb 33) 竪穴実測図	250
第77 図	8号 (Pb 36) 竪穴実測図	253
第78-1 図	9号 (Pg 21) 竪穴実測図	254
第78-2 図	9号 (Pg 21) 竪穴出土遺物実測図	255
第79-1・2・3 図	未精査竪穴住居跡出土遺物実測図	257~259
第80-1 図	1号 (Sj 09) 井戸実測図	262
第80-2 図	1号 (Sj 09) 井戸出土遺物実測図	263
第81 図	1号 (Af 18) 掘立柱建物跡実測図	265
第82 図	2号 (Bb 53) 掘立柱建物跡実測図	266
第83 図	3号 (Be 21) 掘立柱建物跡実測図	268
第84 図	4号 (Bf 18) 掘立柱建物跡実測図	269

第85図	5号 (Bg 09) 掘立柱建物跡実測図	271
第86図	6号 (Bg 77) 掘立柱建物跡実測図	272
第87図	7号 (Bh 15) 掘立柱建物跡実測図	273
第88図	8号 (Ia 50) 掘立柱建物跡実測図	274
第89図	9号 (Mf 62) 掘立柱建物跡実測図	275
第90図	10号 (Ng 33) 掘立柱建物跡実測図	276
第91図	11号 (Ri 27) 掘立柱建物跡実測図	277
第92図	12号 (Rj 30) 掘立柱建物跡実測図	278
第93図	13号 (Se 06) 掘立柱建物跡実測図	279
第94図	14号 (Tc 62) 掘立柱建物跡実測図	280
第95図	15号 (Pb 21) 掘立柱建物跡実測図	281
第96図	掘立柱建物跡出土遺物実測図	282
第97- 1 図	1～9号円形土壌実測図	284
第97- 2 図	9号 (Mi 68) 円形土壌出土遺物実測図	286
	14号 (Pa 12) 円形土壌出土遺物実測図	286
第98図	10～20号円形土壌実測図	289
第99図	1～10号長方形土壌実測図	292
第100- 1 図	1号 (Ed 65) 方形土壌実測図	295
	2号 (Ee 65) 方形土壌実測図	295
第100- 2 図	1号 (Ed 65) 方形土壌出土遺物実測図	295
第101図	3号 (Ed 03) 方形土壌実測図	296
第102図	1号 (Bd 15) 方形竪穴状遺構実測図	297
第103- 1 図	2号 (Bg 24) 方形竪穴状遺構実測図	298
第103- 2 図	2号 (Bg 24) 方形竪穴状遺構出土遺物実測図	299
第104- 1 図	3号 (Ed 56) 方形竪穴状遺構実測図	300
第104- 2 図	3号 (Ed 56) 方形竪穴状遺構出土遺物実測図	299
第105図	1～9号焼土遺構実測図	303
第106図	10～16号焼土遺構実測図	305
第107図	17～21号焼土遺構実測図	308
第108図	23～28・30号焼土遺構実測図	310
第109図	32号 (Oa 80) 焼土遺構実測図	313
第110- 1・2 図	焼土遺構出土遺物実測図	315・316

第111- 1 図	2号 (Eb 12) 溝実測図 ……………	319・320
	5～9号溝実測図……………	319・320
第111- 2 図	2号 (Eb 12) 溝出土遺物実測図 ……………	318
第112- 1 図	3号 (He 21) 溝実測図 ……………	321
	4号 (Hf 24) 溝実測図 ……………	321
第112- 2 図	2号 (Eb 12) 溝出土遺物実測図 ……………	322
第113- 1・2・3 図	検出面採集遺物実測図……………	327～330
第113- 4 図	出土地点不明遺物実測図 ……………	331
第114図	竪穴住居跡・竪穴軸長グラフ……………	339
第115図	竪穴住居跡・竪穴床面積 ……………	340
第116図	竪穴住居跡柱配置模式図 ……………	342
第117図	位置区分別カマド分布図 ……………	346
第118図	カマド方向軸分布図 ……………	347
第119図	竪穴住居跡・竪穴配置図 ……………	351・352
第120図	2号建物模式図 ……………	361
第121図	3号建物模式図 ……………	362
第122図	外傾角度模式図 ……………	374
第123図	A類坏分類判例図 ……………	384
第124図	B類坏分類判例図 ……………	387
第125図	C類坏分類判例図 ……………	389
第126図	D類坏分類判例図 ……………	391
第127図	墨書坏写真図 ……………	397
第128図	高台坏分類判例図 ……………	401
第129図	台付皿実測図 ……………	403
第130図	双耳坏実測図 ……………	403
第131図	蓋のツマミ形態図 ……………	404
第132図	甕形土器分類判例図 ……………	407
第133図	鉄製品実測図 (直刀・刀子) ……………	421・422
第134図	鉄製品実測図 (鉄鏃・撮子・針) ……………	423・424
第135図	鉄製品実測図 (鎌・鉄斧・紡錘車) ……………	427
第136図	環状鉄製品実測図 ……………	429
第137図	その他鉄製品実測図 (馬具・釘状・不明) ……………	430



第138図	還元炉推定復原図	433
第139図	炉壁内面写真図	434
第140図	鞆羽口実測図	436
第141図	鉄滓写真図	439
第142図	炉体推定図	442
第143図	砥石実測図一覧	445・446
第144図	足方様石製品写真図	448
第145図	硯実測図	449
第146図	漆関係遺物図版	451
第147図	出土古銭拓影図	453
第148-1図	陶・磁器実測図	456
第148-2図	陶・磁器実測図	457
第148-3図	播鉢実測図	458

## 挿 表 目 次

### 東北自動車道関係調査遺跡一覧

第1-1表	築地内溝出土环形土器一覧	19
第1-2表	築地外溝出土环形土器一覧	21
第2表	2号(Bd 77)住出土环形土器一覧	27
第3-1表	3号(Cb 77)住出土环形土器一覧	29
第3-2表	3号(Cb 77)住出土甕形土器一覧	29
第4-1表	4号(Cf 50)住出土环形土器一覧	32
第4-2表	4号(Cf 50)住出土甕形土器一覧	32
第5-1表	5号(Cg 06)住出土环形土器一覧	39
第5-2表	5号(Cg 06)住出土甕形土器一覧	39
第6-1表	6号(De 06)住出土环形土器一覧	42
第6-2表	6号(De 06)住出土甕形土器一覧	42
第7-1表	7号(Dh 71)住出土环形土器一覧	48
第7-2表	7号(Dh 71)住出土甕形土器一覧	48
第8-1表	8号(Di 53)住出土环形土器一覧	55
第8-2表	8号(Di 53)住出土甕形土器一覧	56

第8-3表	8号 (Di 53)	住出土鉄製品一覽	56
第9-1表	9号 (Ea 59)	住出土环形土器一覽	58
第9-2表	9号 (Ea 59)	住出土甕形土器一覽	58
第9-3表	9号 (Ea 59)	住出土鉄製品一覽	60
第10-1表	10号 (Eb 03 旧)	住出土环形土器一覽	62
第10-2表	10号 (Eb 03 旧)	住出土甕形土器一覽	64
第10-3表	10号 (Eb 03 旧)	住出土鉄製品一覽	64
第10-4表	10号 (Eb 03 新)	住出土环形土器一覽	65
第10-5表	10号 (Eb 03 新)	住出土甕形土器一覽	65
第10-6表	10号 (Eb 03 新)	住出土鉄製品一覽	65
第11表	11号 (Eb 09)	住出土环形土器一覽	68
第12-1表	12号 (Ec 62)	住出土环形土器一覽	71
第12-2表	12号 (Ec 62)	住出土甕形土器一覽	71
第13表	13号 (Ec 53)	住出土鉄製品一覽	73
第14-1表	14号 (Fe 06)	住出土环形土器一覽	76
第14-2表	14号 (Fe 06)	住出土甕形土器一覽	76
第15-1表	15号 (Fi 09)	住出土环形土器一覽	78
第15-2表	15号 (Fi 09)	住出土鉄製品一覽	80
第16-1表	16号 (Ge 09)	住出土环形土器一覽	82
第16-2表	16号 (Ge 09)	住出土甕形土器一覽	85
第17-1表	17号 (Gi 09)	住出土环形土器一覽	90
第17-2表	17号 (Gi 09)	住出土甕形土器一覽	90
第18-1表	18号 (Gj 12)	住出土环形土器一覽	94
第18-2表	18号 (Gj 12)	住出土甕形土器一覽	94
第18-3表	18号 (Gj 12)	住出土鉄製品一覽	94
第19-1表	19号 (Id 12)	住出土环形土器一覽	97
第19-2表	19号 (Id 12)	住出土甕形土器一覽	101
第19-3表	19号 (Id 12)	住出土鉄製品一覽	101
第19-4表	19号 (Id 12)	住出土砥石一覽	101
第20-1表	20号 (Jc 15)	住出土甕形土器一覽	104
第20-2表	20号 (Jc 15)	住出土鉄製品一覽	104
第21-1表	22号 (Je 15)	住出土环形土器一覽	109

第21- 2 表	22号 (Je 15)	住出土甕形土器一覽	110
第22表	23号 (Ji 59)	住出土甕形土器一覽	111
第23表	24号 (Jj 03)	住出土甕形土器一覽	115
第24表	25号 (Jj 12)	住出土甕形土器一覽	117
第25表	26号 (Kc 12)	住出土甕形土器一覽	122
第26- 1 表	29号 (La 50)	住出土环形土器一覽	131
第26- 2 表	29号 (La 50)	住出土甕形土器一覽	131
第27- 1 表	31号 (Lc 33-1)	住出土环形土器一覽	135
第27- 2 表	31号 (Lc 33-1)	住出土甕形土器一覽	135
第28- 1 表	32号 (Lc 33-2)	住出土环形土器一覽	139
第28- 2 表	32号 (Lc 33-2)	住出土甕形土器一覽	139
第28- 3 表	32号 (Lc 33-2)	住出土鉄製品一覽	139
第29- 1 表	33号 (Lj 21)	住出土环形土器一覽	144
第29- 2 表	33号 (Lj 21)	住出土甕形土器一覽	144
第29- 3 表	33号 (Lj 21)	住出土鉄製品一覽	144
第30表	35号 (Lj 71)	住出土鉄製品一覽	150
第31- 1 表	36号 (Mc 18)	住出土环形土器一覽	152
第31- 2 表	36号 (Mc 18)	住出土甕形土器一覽	152
第32- 1 表	37号 (Me 18)	住出土环形土器一覽	156
第32- 2 表	37号 (Me 18)	住出土甕形土器一覽	156
第33- 1 表	38号 (Me 21)	住出土环形土器一覽	159
第33- 2 表	38号 (Me 21)	住出土鉄製品一覽	159
第34- 1 表	39号 (Me 27)	住出土环形土器一覽	161
第34- 2 表	39号 (Me 27)	住出土甕形土器一覽	164
第34- 3 表	39号 (Me 27)	住出土鉄製品一覽	164
第35- 1 表	40号 (Me 62)	住出土环形土器一覽	167
第35- 2 表	40号 (Me 62)	住出土鉄製品一覽	167
第36表	41号 (Mi 27)	住出土环形土器一覽	169
第37- 1 表	42号 (Nh 06)	住出土环形土器一覽	172
第37- 2 表	42号 (Nh 06)	住出土甕形土器一覽	172
第38- 1 表	46号 (Oi 33)	住出土环形土器一覽	189
第38- 2 表	46号 (Oi 33)	住出土甕形土器一覽	189

第38- 3表	46号 (Oi 33)	住出土鉄製品一覽	190
第39- 1表	47号 (Pd 15)	住出土环形土器一覽	193
第39- 2表	47号 (Pd 15)	住出土甕形土器一覽	193
第40- 1表	48号 (Pe 33)	住出土甕形土器一覽	195
第40- 2表	48号 (Pe 33)	住出土鉄製品一覽	195
第41表	49号 (Pf 18)	住出土甕形土器一覽	199
第42- 1表	50号 (Pg 33)	住出土环形土器一覽	201
第42- 2表	50号 (Pg 33)	住出土鉄製品一覽	201
第43- 1表	51号 (Pi 27)	住出土鉄製品一覽	203
第43- 2表	51号 (Pi 27)	住出土砥石一覽	203
第44表	53号 (Qe 09)	住出土环形土器一覽	208
第45- 1表	54号 (Qe 18)	住出土环形土器一覽	213
第45- 2表	54号 (Qe 18)	住出土甕形土器一覽	213
第45- 3表	54号 (Qe 18)	住出土鉄製品一覽	213
第45- 4表	54号 (Qe 18)	住出土砥石一覽	213
第46表	55号 (Qg 24)	住出土环形土器一覽	216
第47- 1表	56号 (Rh 06)	住出土环形土器一覽	223
第47- 2表	56号 (Rh 06)	住出土鉄製品一覽	224
第48- 1表	57号 (Sj 74)	住出土环形土器一覽	229
第48- 2表	57号 (Sj 74)	住出土甕形土器一覽	229
第49- 1表	59号 (Tj 21)	住出土环形土器一覽	233
第49- 2表	59号 (Tj 21)	住出土甕形土器一覽	233
第50表	61号 (Be 71)	住出土甕形土器一覽	239
第51- 1表	6号 (Na 27)	竪穴出土台付坏一覽	250
第51- 2表	6号 (Na 27)	竪穴出土鉄製品一覽	250
第52- 1表	7号 (Pb 33)	竪穴出土环形土器一覽	252
第52- 2表	7号 (Pb 33)	竪穴出土甕形土器一覽	252
第53表	9号 (Pg 21)	竪穴出土环形土器一覽	255
第54- 1表	未精查住居跡出土环形土器一覽		260
第54- 2表	未精查住居跡出土甕形土器一覽		260
第55表	1号 (Sj 09)	井戸出土环形土器一覽	264
第56表	1号 (Af 18)	掘立柱建物跡柱穴計測表	265

第57表	2号 (Bb 53) 掘立柱建物跡柱穴計測表	267
第58表	3号 (Be 21) 掘立柱建物跡柱穴計測表	268
第59表	4号 (Bf 18) 掘立柱建物跡柱穴計測表	270
第60表	5号 (Bg 09) 掘立柱建物跡柱穴計測表	272
第61表	6号 (Bg 77) 掘立柱建物跡柱穴計測表	272
第62表	7号 (Bh 15) 掘立柱建物跡柱穴計測表	273
第63表	8号 (Ia 50) 掘立柱建物跡柱穴計測表	274
第64表	9号 (Mf 62) 掘立柱建物跡柱穴計測表	275
第65表	10号 (Ng 33) 掘立柱建物跡柱穴計測表	276
第66表	11号 (Ri 27) 掘立柱建物跡柱穴計測表	278
第67表	12号 (Rj 30) 掘立柱建物跡柱穴計測表	279
第68表	13号 (Se 06) 掘立柱建物跡柱穴計測表	280
第69表	14号 (Tc 62) 掘立柱建物跡柱穴計測表	280
第70表	15号 (Pb 21) 掘立柱建物跡柱穴計測表	281
第71- 1表	焼土遺構出土环形土器一覧	314
第71- 2表	焼土遺構出土甕形土器一覧	314
第71- 3表	焼土遺構出土鉄製品一覧	314
第72- 1表	2号 (Eb 12) 溝出土甕形土器一覧	318
第72- 2表	2号 (Eb 12) 溝出土鉄製品一覧	318
第73表	3号 (He 21) 溝出土环形土器一覧	323
第74- 1表	検出面採集・出土地点不明环形土器一覧	325
第74- 2表	検出面採集・出土地点不明甕形土器一覧	326
第75表	古代城柵の基底幅と寄柱桁行寸法	333
第76表	類別カマド位置	345
第77表	カマド施設位置区分と住居跡	346
第78表	カマド移行関係表	347
第79表	竪穴住居跡・竪穴一覧表	353
第80表	掘立柱建物計測一覧表(1)	357
第81表	掘立柱建物計測一覧表(2)	357
第82表	建物面積別一覧表	358
第83表	棟方向別建物一覧表	359
第84表	柱間寸法一覧表	360

第85表	2号建物柱間寸法表	362
第86表	3号建物柱間寸法表	362
第87表	梁行・桁行比率表	364
第88表	土壌一覧	367
第89表	焼土遺構一覧	370
第90表	溝一覧	371
第91表	坏形土器総一覧表	375
第92表	A-a-2類調整技法とその部位一覧	385
第93-1表	A-b-2類調整技法とその部位一覧	385
第93-2表	A-c-2類調整技法とその部位一覧	385
第94表	B類坏 切離し・再調整一覧	386
第95表	B-a-2類調整技法とその部位一覧	386
第96表	B-c類調整技法とその部位一覧	388
第97表	C類有調整坏群の切離し・調整技法・その部位一覧	390
第98-1表	切離し・再調整毎の坏点数一覧	395
第98-2表	各類毎の切離し・再調整の比	395
第99表	高台坏法量・他等一覧	399
第100表	台付皿法量等一覧	403
第101表	蓋形土器法量・他等一覧	404
第102表	甕・鉢形土器総一覧表	408
第103表	鉄製品一覧表	417
第104表	羽口法量・他一覧	437
第105表	砥石一覧表	444
第106表	出土遺物共伴一覧表	461・462
第107表		463

## 写真図版目次

### (遺構)

図版1	遺跡全景	1
図版2	調査区全景	2

図版 3	南辺外郭	3
図版 4	築地と内外溝、寄柱掘り方断面	4
図版 5	櫓・櫓掘り方断面	5
図版 6	櫓掘り方断面、築地内溝・外溝断面	6
図版 7	築地内溝と小溝、築地内溝・外溝断面 南（外）大溝	7
図版 8	南（外）大溝断面・土塁状遺構断面	8
図版 9	1号・2号・3号住、1号溝	9
図版10	4号・5号住、5号住No.2カマド	10
図版11	6号・7号住、7号住カマド、8号住	11
図版12	9号住、10号-1・2住、10号-1住カマド	12
図版13	11号住、2号溝、12号・13号住	13
図版14	14号住、14号住カマド、15号住	14
図版15	16号・17号住、17号住カマド	15
図版16	18号・19号住、19号住遺物出土状況	16
図版17	20号・21号・22号住	17
図版18	23号・24号・25号住、1号竪穴	18
図版19	25号住鉄鏝出土状況、26号住、26号住カマド	19
図版20	27号・28号住	20
図版21	29号・31号・32号住、2号竪穴 29号住遺物出土状況	21
図版22	33号・34号・35号住	22
図版23	36号住、36号住カマド、37号住	23
図版24	38号・39号住、39号住漆器出土状況	24
図版25	39号住漆器出土状況、40号・41号住	25
図版26	42号住、42号住カマド、6号竪穴	26
図版27	43号住、43号住炉様施設、44号住	27
図版28	45号住、45号住炉様施設、46号-1・2住	28
図版29	46号-2住炉体片分布状況 46号-2住カマド 47号住	29
図版30	47号住遺物出土状況、48号・49号住	30
図版31	50号・51号・52号住、10号竪穴	31

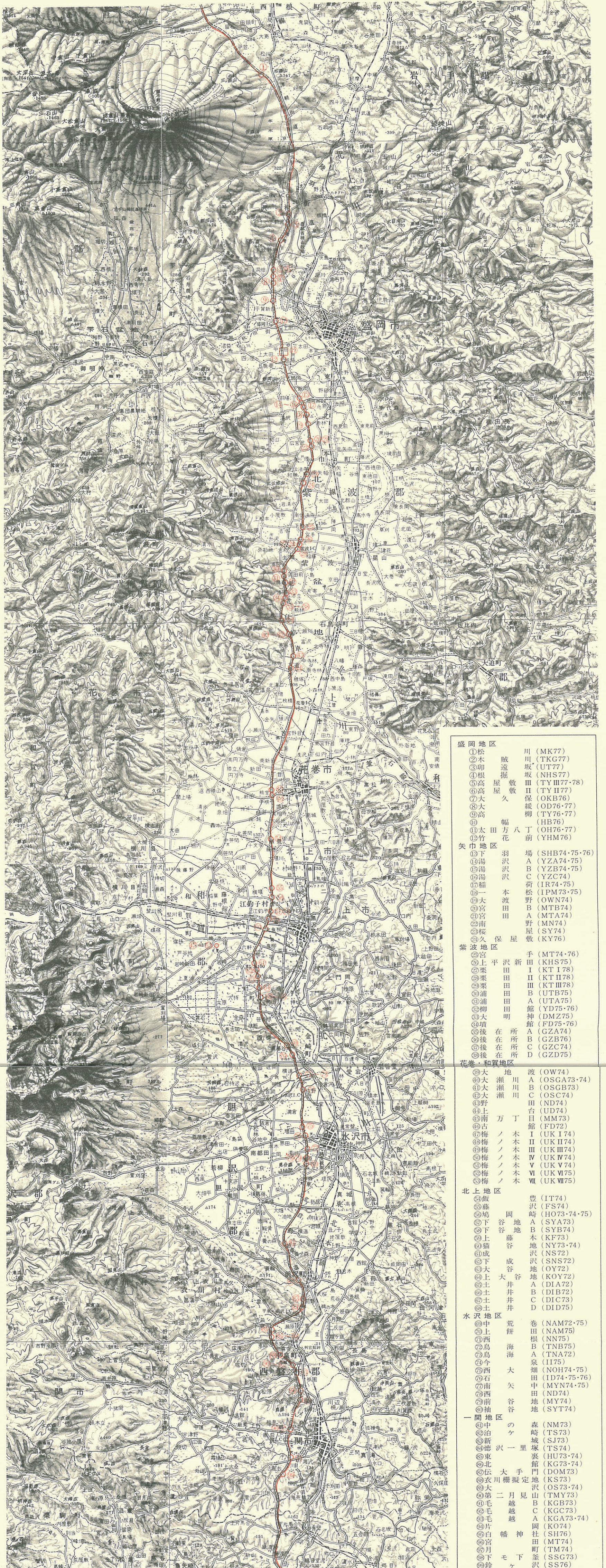
図版32	53号・54号住、54号住カマド支脚	32
図版33	54号住羽口出土状況、55号・56号住	33
図版34	56号住紡錘車出土状況、57号・58号住	34
図版35	59号住、59号住漆紙出土状況、60号住	35
図版36	61号住、井戸	36
図版37	1号・2号・3号掘立柱建物跡	37
図版38	4号・5号・6号掘立柱建物跡	38
図版39	7号・8号・9号掘立柱建物跡	39
図版40	10号・11号・12号・13号掘立柱建物跡	40
図版41	14号・15号掘立柱建物跡、1号円形土壇	41
図版42	3号・6号・9号円形土壇	42
図版43	2号～8号長方形土壇	43
図版44	1号・2号・3号方形土壇、2号方形竪穴状遺構	44
図版45	3号方形竪穴状遺構、1号・2号・4号～9号焼土遺構	45
図版46	4号・7号・8号・17号焼土遺構	46
図版47	19号・20号・21号焼土遺構	47
図版48	23号・26号・32号焼土遺構	48
図版49	2号・3号・4号溝	49
図版50	3号・4号溝断面、TH <sub>II</sub> -001住	50
(遺物)		
図版51	2号・3号・4号住	51
図版52	5号住	52
図版53	5号・6号・7号住	53
図版54	8号住	54
図版55	9号・10号-1住	55
図版56	10号-1・2住、11号・12号住	56
図版57	12号・14号・15号住	57
図版58	15号・16号住	58
図版59	16号・17号住	59
図版60	17号・18号・19号住	60
図版61	20号・21号・22号・23号住	61
図版62	23号・24号・25号住	62



図版63	26号・27号住	63
図版64	28号・29号・31号・32号住	64
図版65	32号・33号・35号住	65
図版66	36号・37号・38号住	66
図版67	39号・40号・41号住	67
図版68	42号・44号・46号・47号住	68
図版69	47号・50号・51号・53号・54号住	69
図版70	55号・56号住	70
図版71	56号・57号・59号・61号住	71
図版72	6号・7号・9号竪穴	72
図版73	138号住、5号掘立柱建物、1号方形土壇	73
	Ai24 焼土付近、22号・26号・32号焼土遺構	73
	Qj12 グリット、表採、出土地点不明	73
図版74・75	還元炉体片	74・75
図版76	砥石	76
図版77	柱根、鞆羽口 緑釉陶器他	77
図版78	古銭	78
図版79～81	陶磁器	79・81

付 図

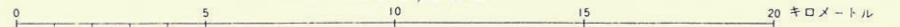
付図1	遺跡全体図
付図2	調査範囲と地形図
付図3-1・2	遺構配置図
付図4	南辺外郭遺構平面図 検出遺構一覧表



盛岡地区		川 (MK77)
①松木	賊	坂 (TKG77)
②木	遠	坂 (UT77)
③卯	掘	坂 (NHS77)
④根	敷	Ⅲ (TYⅢ77-78)
⑤高	屋	Ⅱ (TYⅡ77)
⑥大	久	保 (OKB76)
⑦大		柳 (OD76-77)
⑧大		柳 (TY76-77)
⑨高		柳 (HB76)
⑩太	幅	丁 (OH76-77)
⑪竹	方	前 (YHM76)
⑫中	花	
矢巾地区		場 (SHB74-75-76)
⑬下	羽	A (YZA74-75)
⑭湯	沢	B (YZB74-75)
⑮湯	沢	C (YZC74)
⑯桶	一	荷 (IR74-75)
⑰大	宮	本 (IPM73-75)
⑱大	宮	野 (OWN74)
⑲大	宮	野 (MTB74)
⑳大	宮	野 (MTA74)
㉑大	宮	野 (MN74)
㉒大	宮	野 (SY74)
㉓大	宮	野 (KY76)
紫波地区		手 (MT74-76)
㉔上	平	新 (KHS75)
㉕上	栗	I (KT178)
㉖上	栗	II (KT178)
㉗上	栗	III (KT178)
㉘上	栗	B (UTB75)
㉙上	栗	A (UTA75)
㉚上	栗	館 (YD75-76)
㉛上	栗	神 (DMZ75)
㉜上	栗	神 (FD75-76)
㉝上	栗	A (GZA74)
㉞上	栗	B (GZB76)
㉟上	栗	C (GZC74)
㊱上	栗	D (GZD75)
花巻・和賀地区		渡 (OW74)
㊲大	瀬	A (OSGA73-74)
㊳大	瀬	B (OSGB73)
㊴大	瀬	C (OSC74)
㊵野	上	田 (ND74)
㊶南	目	台 (UD74)
㊷古	目	目 (MM73)
㊸梅	木	館 (FD72)
㊹梅	木	I (UK174)
㊺梅	木	II (UK174)
㊻梅	木	III (UK174)
㊼梅	木	IV (UK174)
㊽梅	木	V (UK175)
㊾梅	木	VI (UK175)
㊿梅	木	VII (UK175)
北上地区		豊 (IT74)
㊱坂		(FS74)
㊲藤	崎	(HO73-74-75)
㊳下	谷	A (SYA73)
㊴下	谷	B (SYB74)
㊵上	谷	木 (KF73)
㊶上	谷	木 (NY73-74)
㊷成	下	沢 (NS72)
㊸成	下	沢 (SNS72)
㊹成	下	沢 (OY72)
㊺大	上	地 (KOY72)
㊻大	上	A (DIA72)
㊼大	上	B (DIB72)
㊽大	上	C (DIC73)
㊾大	上	D (DID75)
水沢地区		巻 (NAM72-75)
㊿中	荒	(NAM75)
①西	餅	(NN75)
②西	根	(TNB75)
③西	根	A (TNA72)
④西	根	(II75)
⑤西	根	(NOH74-75)
⑥西	根	(ID74-75-76)
⑦西	根	(MYN74-75)
⑧西	根	(ND74)
⑨西	根	(MY74)
⑩西	根	(SYTT74)
一関地区		森 (NM73)
⑪中	崎	(TS73)
⑫新	崎	(SJ73)
⑬新	崎	(TS74)
⑭東	崎	(HU73-74)
⑮東	崎	(KG73-74)
⑯大	崎	(DOM73)
⑰大	崎	(KS73)
⑱大	崎	(OS73-74)
⑲大	崎	(TMY73)
⑳大	崎	(KGB73)
㉑大	崎	(KGC73)
㉒大	崎	A (KGA73-74)
㉓大	崎	(KO74)
㉔大	崎	(SH76)
㉕大	崎	(MT74)
㉖大	崎	(TM74)
㉗大	崎	(SSG73)
㉘大	崎	(SS76)

第1図 岩手県における東北縦貫自動車関係道跡分布図

1:200,000



本

文



## I 調査と方法

### 1 調査と保存の経過

#### (1) 調査の経過

県内の東北縦貫自動車道建設は、昭和40年11月仙台・盛岡間の基本計画の決定に始まり、昭和43年4月の施行命令によって具体化される。

これに関係する埋蔵文化財の取り扱いについては、文化庁と日本道路公団の覚書によって、岩手県教育委員会がおこなうことになった。

昭和42～43年に分布調査が実施され、ついで昭和47年の現地確認調査等を経て、最終的には99遺跡が調査対象遺跡として、昭和47年～53年8月まで発掘調査がおこなわれた。<sup>註1</sup>

太田方八丁遺跡の発掘調査は、昭和51年～52年の2ヶ年にわたっておこなわれ、初年は調査員、補助員合わせて5名を編成して4月5日に現地入り諸準備後、4月7日より発掘を開始した。

本遺跡の性格については古来諸説、口伝があった。その中で板橋 源氏の論考は、昭和31年3月現地踏査をもとに「古代蝦夷征討期の開拓基地」<sup>註2</sup>とするもので最も新しいものであった。

板橋氏が本遺跡の南辺土塁とみた通称「ドテツパタケ」の西に畦畔が直線状に続き、調査地を東西に横切るのを認めることから南辺遺構の存在が想定され、この地区相当U・Vブロックから人力による発掘に着手した。

4月12日、最初の小柱穴を検出したのを契機に、東西に走る築地寄柱列とそれを跨ぐ掘立柱槽跡が明らかになり、本遺跡の南辺は築地によるもので古代城柵の可能性が強まったのが4月16日時点である。

そのため、保存問題との関連の中で、速急に郭内と想定される築地線以北の遺構把握と北辺の確認が要求され、バックホーショベル3台による表土除去と人力での遺構検出作業に主力を注ぐとともに築地付属施設の確認作業もすすめた。この間ショベル台数の減はあったが11月4日までおよんだ。

その結果、築地線から約620m北の段丘崖までに竪穴住居跡を中心とした遺構が多数検出され築地内外溝、外郭南（外）大溝も確認された。北段丘崖以北の低位水田には想定された北辺地点も含め全く遺構は検出されなかった。

遺構検出と併行して、保存協義資料としての遺構配置図作成のために平板実測をすすめ、遺構検出地域を対象に改めて調査ブロックの設定をした。竪穴住居跡の精査は築地との年代的関連を把握するため必要な最少限にとどめ8棟についておこなった。また越冬に向け遺構保護のため上面に覆土し、12月13日で51年の作業を終了した。

昭和52年の調査は4月4日から調査員、補助員合わせて11名編成で開始され、5月6日に補助員1名増員、6月6日～8月31日まで調査員、補助員合わせて3名の参加があった。

前年来、日本道路公団、文化庁、岩手県教育委員会による協議の結果、築地と調査地北半の遺構密集地帯をボックスおよび高架方式で部分保存することになったため、直接破壊される遺構のみを調査する。調査は工事優先順に従って東側工事用道路、高架、盛土施工部分とすすめ、精査完了分から順次引き渡した。

すなわち、工事用道路部分を5月23日、C～Kブロック内の高架分 A<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>を6月11日、P<sub>5</sub>～P<sub>6</sub>を6月17日、P<sub>7</sub>～A<sub>2</sub>を7月30日、盛土施工分のA・Bブロックを8月29日、Pブロックにある STA 665+00以南を11月1日、残るL～Pブロックの一部を11月25日に引き渡した。

引き渡しに先きだって、現地説明会を5月13日、6月8日、7月21日、10月27日と4回にわたって開催、また、航空測量による遺構配置図作成をアジア航測株式会社に委託、空中写真撮影をおこなった。

調査は11月26日をもって終了した。この間、遺跡の重要性にもとづき、盛岡市教育委員会による範囲確認調査が3ヶ年事業としてくまれ、初年度調査が7月4日からの内城地区を手始めに開始された。

## (2) 一部保存にいたる経過 (付図2)

昭和51年2月道路公団との「51年度工程会議」で、本遺跡の規模、性格を早期に明らかにすることとし、その時期を5月初旬を目途にし、結果によって両者協議することが前提となり4月からの調査となっている。

調査早々の築地寄柱等の検出と、その後、竪穴住居跡等の検出が相次ぎ、公団に状況説明をするとともに、文化庁からは国指定の可能性を含む遺跡であり全体の遺構確認を急ぐよう指導され、保存問題がクローズアップし、公団は当分発注を見合わせるようになった。

5月、6月と公団への現況説明と協議を重ねる中で、文化庁の意見を聴取した岩手県教育委員会は、公団に①に迂回案、②に全面高架案を提示し、将来、国指定史跡として保存するよう考える旨を伝えるが、公団側は協議の結果、迂回、高架とも不可能との回答があった。

7月、8月と公団との協議が続行され、9月にいたって公団から遺構密集地区について70m、100mの高架案が提示され、更に全面保存を主張する岩手県教育委員会との協議の末、可能な限りスパンを広くし、東西中軸線の見通しと景観を確保すること、保存区間を長くすること等に重点をおき付図2に示す地域を高架によって保存することになり設計変更となった。

すなわち STA 666+53～STA 669+06までの253m、A<sub>1</sub> (アパット1)～A<sub>2</sub>までの間に P<sub>1</sub> (ピアー1)～P<sub>12</sub>までの脚をもち、そのスパンは A<sub>1</sub>～A<sub>9</sub>は各17m、P<sub>9</sub>～A<sub>2</sub>は各25mである。

脚施工のための掘さく範囲は A<sub>1</sub>・A<sub>2</sub>は4m×26.5m、P<sub>1</sub>～P<sub>12</sub>は6m×24mである。また、南辺築地部分は21mボックスで跨ぐことになった。しかし、南(外)大溝については協議の最

終段階になってからの検出のため、保存措置を講ずることができなかった。

以上の設計変更について昭和52年3月18日付、文化庁長官から日本道路公団仙台建設局長あて「太田方八丁遺跡の保存に伴う設計変更について(回答)」の文書で、「昭和52年1月22日付け仙建総管第20号で協議のあった工事の内容について妥当と考えるので遺構保存等に充分配慮の上、工事を実施するようお願いする」として、同日付け岩手県教育委員会教育長あて、文化庁次長から「太田方八丁遺跡の保存に伴う設計変更についての通知」によって「昭和52年2月4日付教文第52号進達に対し別紙のと通りの回答した」旨の通知で正式に保存の確定をみた。

注1 既刊の「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」他に詳細は掲載されている。

注2 八幡殿陣場説「寛文8年(1668)奥州之内岩手郡栗谷川古城図——盛岡中央公民館蔵——などの古記録

注3 板橋源「盛岡市史」第一分冊2開拓期

## 2 調査範囲と、調査・整理方法

### (1) 調査範囲 (付図1・2)

道路幅中心杭STA661+00～STA672の延長1,150m、幅60m、面積69,000m<sup>2</sup>を対象とした。検出遺構は STA 662+80～STA 669+80の延長690m、面積41.00m<sup>2</sup>に集中した。すなわち、後述するA～Wブロックに相当する範囲で、精査はこのブロックに集中しておこなわれた。

保存地区の築地は平面記録を主体に内外溝のみ完掘、高架施工分はアパットとピアール工事の掘さくによって破壊される遺構と、路線内東側幅8mの工事用道路にかかる分のみを精査の対象とした。

なお、Aブロック段丘崖以北には全く遺構は検出されず、Wブロック以南では付図2に示すSTA 661+40地点の南にTHII-001とした竪穴住居跡1棟が検出された。この遺構は竹花前遺跡<sup>注1</sup>に関連するとみられ、本報告書では巻末に掲載する。

### (2) 調査の方法

#### 調査ブロックの配置 (第2-1・2図)

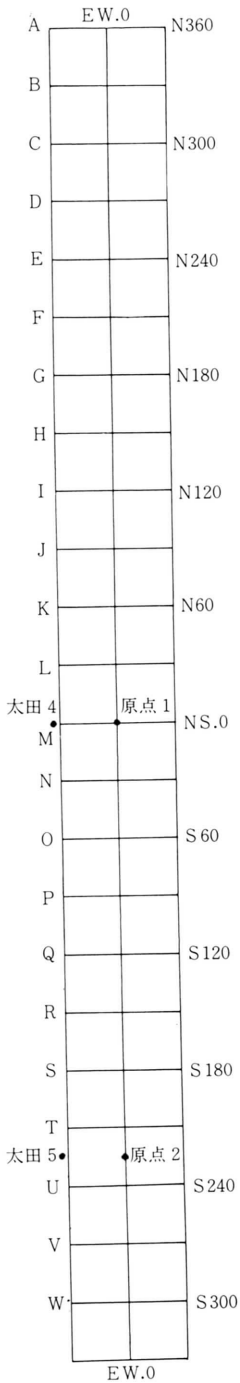
検出遺構の集中した STA 662+80～STA 669+80区域を対象に調査ブロックとグリットの配置に基づく平面発掘を基本とした。

調査座標原点は、付図2に示す太田4・5<sup>注1</sup>を東に33m平行移動し原点1・2とし原点1を基点とした。

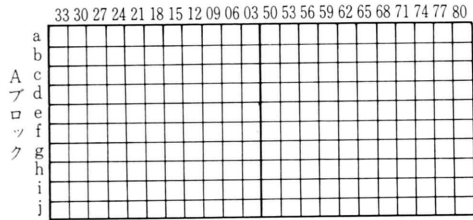
原点1 NS、EWO の平面直角座標値は、X-35091.193、Y+23375.369、H131.570、座標軸の方向角は、359°35'58"である。なお真北方向角は-0°10'26"である。

原点1からX方向に対しては北にN、南にS、Y方向に対しては東にE、西にWで示す。

調査ブロックとグリットの配置は原点1・2によって南北中軸線を設定し、30m単位にA



第2-1図  
調査区画模式図



第2-2図 グリッド配置模式図

～Wブロックに、更に各ブロックを3m単位にa～jに細分し、これに直交する東西方向は中軸線を基線に3m単位に西方へ03、06、09～ 東方へ50、53、56～とし、これらの組合せによる北西に位置する交点をもって、Aa03、Aa50のように3m×3mのグリッド名とした。

#### 発掘方法

南辺想定部分の人力による粗掘りを除き、バックホーショベルを用い幅5mで南北方向にトレンチ状に表土除去、更に遺構のない部分に転地しながら全面におよんだ。遺構検出は原則とし人力によることに意を用いたが、保存に関連し遺構確認の緊急性があったため、ショベルによる検出面までの掘り下げが広範におよんだ。

遺構精査は原則として2分法・4分法による平面発掘に留意し、遺構の性格と内部堆積状況・構造・重複等を把握しながら完掘することにした。内部堆積の個別の層準は含まれる遺物や構成物質、性状によって識別し、色調については「新版 標準土色帳<sup>註2</sup>」を利用した。

なお、遺構名は当該グリッド名を付したが、この場合、遺構の北西位置でもって呼称することを原則とした。

遺物は、出土年月日・出土地点・出土層位を記録し、遺構に直接関係するものや、年代決定の資料となり得るものについては、出土レベル、位置を平面図に記録し、遺物番号を付し、検出面等の出土遺物は原則としてグリッドごとに取り上げた。

#### 実測と記録

遺構配置図と南辺外郭築地・内外溝・南(外)大溝平面



図は空中写真測量を用いて作成した。図幅の縮尺は遺構配置図500分の1、南辺外郭諸遺構は50分の1、100分の1である。

竪穴住居跡等については原則として遣り方実測を用い、平板実測は補助にとどめた。図幅の縮尺を20分の1に統一したが、遺構・遺物の細部については、必要に応じて10分の1縮尺を採用した。

遺物の出土状況・層位・遺構に関する所見等の記録は、実測図・遺構調査記録用紙・フィールドノートを用い、進行状況、全体の問題点は調査日誌に記録した。

写真記録は、35mmモノクロ、カラー・6×7cm版モノクロを主に用いた。

また、総合的な見地からの記録作業という意味で、考古学のみならず関連科学の研究者の現場実見と見解をいたゞいた。

### (3) 整理の方法

昭和53年1月～3月の第1原図の点検、照合、登録と写真整理の一部と遺物整理の一部を除き、昭和56年4月からの整理である。

#### 図面整理

第1原図の点検、照合、修正をおこない、分離、合成ののち第2原図を作成した。第2原図の縮尺は20分の1に統一した。

#### 遺物整理

出土遺構、地点を点検し番号を付して登録、接合、分類と合せて実測図を作成しカード貼付をし、計測および観察事項を記入した。

漆器については、元興寺文化財研究所の協力を得て保存処理をしたが、鉄製品は未処理であり今後の処置を必要とする。

分析・鑑定は、土器の胎土、鉄製品、鉄滓、火山灰、炭化物、植物遺体、石材の一部および古銭についておこなった。

#### 写真整理

遺構別に35mm版、6×7cm版モノクロ、35mm版スライドごとにまとめた。

#### 本書記述に関して

〔1〕 遺構名は種別ごとに、原則とし北からNoを付し1号、2号～とし、グリット名による呼称は（ ）で示した。なお、南辺外郭遺構にはNoは付さない。

〔2〕 遺構の位置は原点1からのE・W、N・Sの距離で表示した。

〔3〕 竪穴住居跡の規模の計測は各辺の上端の midpoint 間で、床面積は下端の midpoint 間の計測によって算出している。

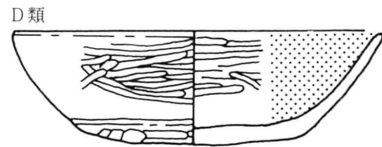
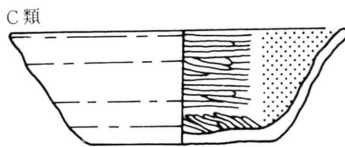
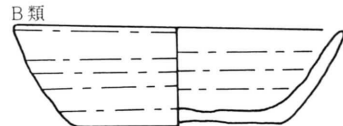
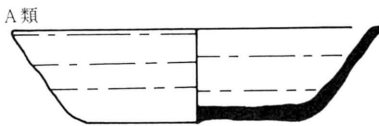
〔4〕 掘立柱建物跡の柱穴の大きさは検出面における東西・南北の径により、深さは検出面

下によって示したものである。検出面および床面の高さはすべて標高によって表わしている。

柱穴群によって推定される掘立柱建物遺構は大部分発掘調査段階で確認されたものである。同一検出面における掘立柱建物の柱穴は、原則として①同一直線上に位置し、重複せずに一定の間隔を有すること、②仮の梁行、または桁行線に平行、あるいは直交すること、③掘り方の大きさ、深さ、底面の高さ、埋土等に著しい相違の認められないこと等の条件を満たす柱穴によって確認されたものである。建物規模は両端柱穴の柱痕中心点、柱痕不明な柱穴では掘り方底部の中心点をもって計測し、同一方向の平均値によって表わしている。各柱間寸法も同様である。換尺値はすべて曲尺によって（ ）に併記している。また、棟方向は柱配置によって推定される桁行方向の平均値をもって示している。

〔5〕 坏型土器A・B・C・Dの各類については、本文ii-1項を参照されたい。これらの坏は図版上では下記の如くに示されている。

- |    |                     |                           |
|----|---------------------|---------------------------|
| A類 | 断面に黒塗りしている。         | ※須恵器甕型土器の断面も黒塗りしている<br>いる |
| B類 | A・C・D以外のもの。→ロクロ使用   |                           |
| C類 | 内面に点をつけている。         |                           |
| D類 | 内面に点をつけている。——ロクロ不使用 |                           |



注1 アジア航測株式会社に委託、太田1～太田5の基準点を設置した。(昭和51年5月)

注2 農林省水産技術会議事務局監修(1970)